

基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫

ーワークシートを活用した「書く」活動の指導を通してー

豊見城市立長嶺中学校教諭 桃 原 秀 美

内容要約

基礎的・基本的事項の定着を図るために、自作のワークシートを活用し、「書く」活動の指導を通して学習指導の工夫に取り組んだ。

どの生徒にとっても取り組みやすい「書くこと」の教材（ワークシート）を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を継続して行った。その結果、苦手意識が軽減され、成就感が得られた。また、学習意欲も向上し、基礎的・基本的事項の定着を図ることができた。

【キーワード】 基礎的・基本的事項の定着 書くこと 習熟度別指導

目 次

I テーマ設定の理由	61
II 研究構想図	62
III 研究内容	62
1 基礎的・基本的な内容と基礎的・基本的事項の定着について	62
2 「書く」活動の意義	63
3 個に応じた指導の工夫	63
4 個に応じたワークシートの工夫	63
IV 授業実践	65
1 単元名	65
2 単元設定の理由	65
3 単元の指導計画と配当時間	65
4 単元の目標	66
5 本時の指導計画	67
6 授業仮説の検証	69
V 研究の考察	69
VI 研究の成果と今後の課題	70
1 研究の成果	70
2 今後の課題	70

＜中学校 英語＞

基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫

—ワークシートを活用した「書く」活動の指導を通して—

豊見城市立長嶺中学校教諭 桃 原 秀 美

I テーマ設定の理由

国際化が進んでいく中で、英語教育の必要性は高まっている。県内の小学校では教科の中に試験的に英語を取り入れたり、「総合的な学習の時間」に英語活動を実践するなど、国際化に対応する教育を進めている。小学校の英語活動は、国際理解に関する学習の一環として行われており、歌やゲームなど音声を中心とした活動で、中学校への橋渡しとなっている。

中学校においては、外国語科の英語は必修教科となった。学習指導要領では、「聞くこと」や「話すこと」などの「実践的コミュニケーション能力の基礎の育成」を最重要目標としている。それには小学校でも取り組んだ、音声を中心とした英語活動を踏まえ、中学校から始まる「読むこと」「書くこと」という文字を通したコミュニケーションの指導など、4技能のバランスのとれた指導のもとで、個々の生徒が積極的に取り組んでいこうとする態度や能力を育てることが大切である。そのためには、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの言語活動の関連を図った指導を効果的に行うことが大切である。

しかし、これまでの実践では、これらの4つの指導の中で、特に「書くこと」の指導については、生徒の個人差が非常に大きい。また、「聞くこと」「話すこと」を中心としたコミュニケーション活動と比較して、「書くこと」の活動については消極的な生徒が多い。板書事項ですら、書き写すのに時間を要する生徒や、定期テストのライティングの問題では不得意な生徒が多い。授業の中でも「聞くこと」「話すこと」に時間をかけたため「書くこと」に要する時間が見いだせず、「書くこと」の活動が家庭学習にまわされがちであった。そのため、学習事項の定着が弱く「英語が苦手」と感じる生徒が増えてきたのである。そこで、苦手意識を持つ生徒を英語好きに変えるには、「聞くこと」「話すこと」の指導と並行しながら、「書くこと」の指導を日常化する指導の工夫・改善が必要になると感じた。そのためには英語科における、基礎・基本を明確にし、その学習の具体的事項、つまり基礎的・基本的事項を明らかにさせることが大切である。それを活用して個に応じたきめ細かな指導の授業を、英語学習の初期の段階から、継続的にこなうことが大切であると感じた。生徒自身が楽しみながら、自然と書く力を身につけることができるための指導法を考えながら授業を組み立てていくことが大切になる。

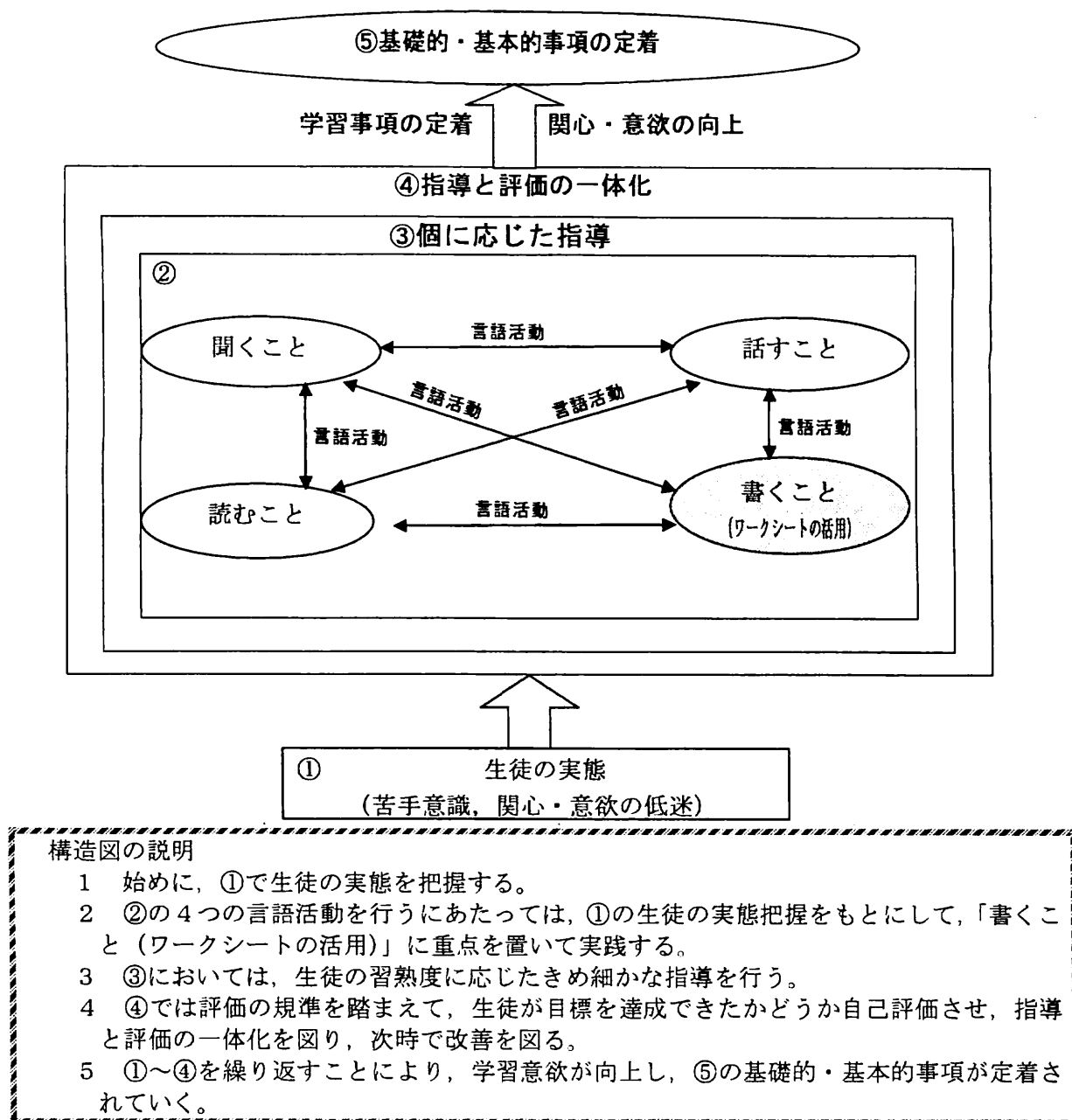
そこで、「書くこと」の指導において、個に応じたどの生徒にも取り組みやすいワークシートを作成し、きめ細かな指導を継続的に行えば、基礎的・基本的事項の定着を図ることができるであろうと考え、このテーマを設定した。そうすることによって、書くことの抵抗感を軽減させ、英語が「苦手」を「好き」に変え、学習意欲を向上させることもできるであろうと考える。

＜研究仮説＞

学習指導において、どの生徒にとっても取り組みやすい「書くこと」の教材（ワークシート）を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を継続的に行うことによって、基礎的・基本的事項を定着させることができるであろう。

Ⅱ 研究構想図

基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の構造図



Ⅲ 研究内容

1 基礎的・基本的な内容と基礎的・基本的事項の定着について

基礎的・基本的な内容とは, 「学習指導要領―(外国語編)」に示されている目標及び内容のことである。それは, 沖縄県教育委員会発行の「夢・にぬふぁ星プラン(北極星)」にあるように, 自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成につながるものである。

また, 基礎的・基本的事項とは, 学習指導要領に基づき, 沖縄県教育委員会が平成14年に作成した『基礎的・基本的事例集』の中に示されている, 4領域の「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」における指導事項として最小限度身につけるべき基礎的な知識・技能のことである。この事例集を活用して, 個に応じた具体的な指導の工夫を行っていく。

2 「書く」活動の意義

「書く」活動には、英語学習上、どのような効力を持っているかについて述べる。まず、「書く」活動は、自分の手を使って学ぶという要素がある。そして、書くことにより、「気づき」が促進され、それが言語習得において、大きな力になる。「書く」ことにより、その「気づき」がより鮮明になってくる。さらに、文字には、理解を助ける機能や記憶を強化する機能が含まれている。

また、学習指導要領の中で、4技能の言語活動のバランスについて次のように述べている。

「(2) 言語活動の取り扱い」の(ア)

実際に言語を使用して互いの気持ちや考えを伝え合うなどのコミュニケーションを図る活動を行うとともに、(3)に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。

さらに、「解説」では、3学年を通した言語活動の取り扱いについての全般的な配慮事項のうち、実際に言語を使用してコミュニケーションを図る活動と言語材料についての理解や練習を行う活動とのバランスに配慮しつつ指導することの必要性を述べている。

そこで、習熟度別指導において、基礎的・基本的事項の定着を図るためには、学習事項を理解したり練習したりする活動、つまり、「書くこと」活動の点から定着を図っていくことが大切である。そのためには、個に応じたワークシートを作成し、丁寧な指導を行い、学習事項の理解を図り、繰り返し練習させることによって定着を図っていく。こうした「書く」活動を日常の授業の中で取り入れていくことが大切である。

今回の検証で、毎回ワークシートを用意し、それをポートフォリオとして残した。これで生徒が自分自身の学習の成果を振り返ることができる。習熟度別指導では、4技能の指導に当たっては「書くこと」の活動が大切になってくる。

3 個に応じた指導の工夫

個に応じた指導とは、一人ひとりの生徒が持つ個性、能力などを見出し、これをよりよい方向へ支援していく取り組みであると考えることができる。生徒一人ひとりの学習状況を見極めるということから個に応じた具体的な方策をスタートさせることができる。

このことを踏まえて、習熟度別コースの授業を組み立てていく。このコースでの授業は主に、個人差に注目した学習支援が中心となっていく。コースの生徒全員を一通りの説明で十分に理解させ、目標を達成させることはむずかしい。したがって、一人ひとりの生徒の到達度や個性に配慮した指導方法で進めていくことになる。そこで、自作のワークシートを使用し、個別指導や繰り返し学習内容の定着を図るなど、学習方法の手順を身につけさせる。そのなかで、励ましや、成就感を味わわせたりする等のきめ細かな指導をしながら、基礎的・基本的事項を身につけさせていく。

4 個に応じたワークシートの工夫

学習指導は、始めに生徒の実態把握があり、それに基づいて日々の授業の目標を設定し、その目標を達成できるように個に応じたワークシートを作成し授業を行う。学習過程において、生徒一人ひとりの伸び、つまづき等に気付くような支援、評価活動を行い、次の活動へつなげていく。そして、それらの状況に応じた適切な指導を行っていく。さらに、各Unit終了後にまとめのワークシートを作成し、繰り返し学習することによって、基礎的・基本的事項の定着を図っていく。

ワークシートの内容は、学習集団の中における個々の習熟度の差に対応できるようにしていく。表裏1枚にまとめ、表には、基本文とその説明を簡潔にまとめ、基礎的な問題から始めて、裏の応用発展問題へと進めていけるように問題を作成する。基礎的な問題は全員が取り組めるよう問題を作成し、一人ひとりの生徒の理解度に応じて、到達度に配慮しワークシートを進めさせていく。

今回の検証では、基礎コースに対応したワークシートを作成する。

ワークシートは主に次の4種類作成し指導を進めていくことにする。

- ①基本文や重要文の定着のためのワークシート（日常のワークシート）
- ②単語の練習のためのワークシート（到達度に配慮したワークシート）
- ③教科書の内容理解のためのワークシート
- ④各Unit終了後のまとめのワークシート（日常のワークシートの抜粋）

資料①日常使用したワークシート (表)

(裏)

ワークシート

No. _____

Class _____ No. _____ Name _____

Unit 7-1 Halloween (ハロウィーン) (教科書 P52)

ねらい:「～に…があります [います]」の表現がわかる。

【物や人が1つのとき】「～に…があります [います]」=There is ~.

【物や人が2つ以上のとき】「～に…があります [います]」=There are ~.

基本文

There is a book on the desk

「机の上には本が1冊あります。」

There are three balls in the box.

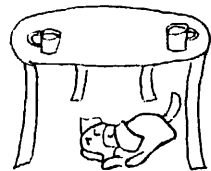
「箱の中にはボールが3つあります。」

There are some balls in the box.

「箱の中にはボールがいくつかあります。」

【基礎・基本】

問1 絵を参考に、数に注意して()内の適語を選び○で囲みなさい。



(1) There (is / are) two (cup / cups) on the table.

「テーブルの上にはカップが2つあります。」

(2) There (is / are) a (dog / dogs) under the table.

「テーブルの下には犬が一匹います。」

問2 日本語の意味にあうように、下線に適する語を書きなさい。

(1) _____ a desk in this room.

「この部屋には机が一つあります。」

(2) _____ a seven students in this classroom.

「この教室には生徒が7人います。」

【応用・発展】

問3 次の絵を見て、「～に…があります [います]」There is a ~. の文を作りましょう。

There are ~.



ギター: guitar
本: book
机: desk
ペン: pen
花: flower
いす: chair
ボール: ball
カップ: cup
鉛筆: pencil
ケーキ: cake
犬: dog

問4 【大切な表現】次の英文の意味を右から選んで記号を書きましょう。

(1) Good evening. ()

(2) Come on in. ()

(3) Look at this. ()

(4) Let's sit. ()

ア おはいいろ。

イ こんにちは。

ウ すわりましょう。

エ これを見て。

問5 次の英語は日本語に、日本語は英語になおしましょう。

(1) pretty ()

(2) 子どもたち _____

(3) すわる _____

(4) let's ()

資料①は基本文や重要文の定着のためのワークシートの例である。習熟度の差に対応できるように、簡単で基礎的な問題を繰り返し練習できるように構成した。

IV 授業実践

1 単元名 Unit 7 Halloween (COLUMBUS 21 English Course 1)

2 単元設定の理由

(1) 教材観(省略)

「There+be 動詞+～」の表現は定着しにくい面もあるので、繰り返し練習させる必要がある。この文は主に説明をするときや、描写するときに使われる表現である。そこで、身近な場面として、自分たちの学校、家、地域などを設定し、人や物の存在について説明させたりなどの口頭練習をさせた後、ワークシートの絵を見て自分で英文を作り「書くこと」の活動を通して基本文の定着を図るようにする。さらに、数を尋ねる表現の「How many 複数名詞～?」の疑問文もあわせて練習させていくようにする。また、ハロウィーンという行事についても説明し、異文化に対する理解を図る。

(2) 生徒観(省略)

(3) 指導観

本年度より自校において、1学年から英語科でも習熟度別指導を行うことになった。4月の段階では習熟度に差がみられないので、1学期は、TTを中心に授業を進め、2学期よりそれぞれのクラスを2つのコース、基本コースと応用コースに分けて各学級で授業を進めている。基本コースの人数は10名以下とし、生徒の特性や実態に配慮し、きめ細かな指導ができるように形成テスト、定期テストや授業態度を参考に担当教師で話し合っってコース編成を行った。2学期終了後に再度編成し、3学期より新編成で授業を始めた。

学期が進むにつれて、習熟の程度に差が出てくるので、指導形態や指導方法を工夫改善し、個に応じたきめ細かな指導がさらに必要となってくる。そこで、どの生徒にとっても取り組みやすいワークシートを工夫し、「書くこと」の指導を通して、基礎的・基本的事項の定着を図っていくことが大切である。

3 単元の指導計画と配当時間

配当時間	指導内容及び指導上の留意点	主な評価の観点
1	- Unit 7 の概要をつかむ。 - 新出語句の発音と意味がわかる。(Unit7・1・2・3)	「聞くこと」 「話すこと」
2	- There is [are] ～.の導入と練習。(Unit7・1) - 絵を見ながら、英文を作り、それをノートに書く。 - ワークシートでまとめる。	「話すこと」 「書くこと」
3本時	- Is [Are] there ～? と尋ねる文と答え方の導入と練習。 - ワークシートを使い、ペアで練習する。 - 自己表現の文を書く。	「聞くこと」 「書くこと」
4	- Unit7・1 の本文が読めて意味がわかる。 - ワークシートで本文の内容理解をする。	「聞くこと」 「読むこと」
5	- How many 複数名詞～?と数を尋ねる表現と答え方の導入と練習。(Unit7・2) - ペアで練習後、ワークシートでまとめる。	「話すこと」 「書くこと」
6	- Unit7・2・3 の本文が読めて意味がわかる。 - ワークシートで本文の内容理解をする。	「聞くこと」 「読むこと」
7	- Unit7 で学習したことのまとめをする。 - ワークシートを使い基本文の定着を図る。 - この課全体の自己評価を行う。	「聞くこと」 「書くこと」

4 単元の目標 (観点別評価・評価規準)

(1) 本課の目標

Unit 7 Halloween	目 標	・There + be 動詞～の用法を理解し、適切に使うことができる。 ・How many + 複数名詞～? を用いて相手に尋ねたり答えたりすることができる。 ・ハロウィーンという行事を通して異文化を理解する。	基 本 文 表 現	・There is a candle in it. ・There are some American children in this area. ・Is there a book on the desk? ・Yes, there is. / No, there is not. ・How many children are there? —Five.	言語の使用場面 [◎] と働き [●]
					◎家庭・地域・学校生活 ●描写する ●説明する ●申し出る ●承諾する ●ほめる ●質問する

(2) 本課の評価規準 (B規準)

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解	
				言語	文化
聞 く	①部屋や町の様子の説明を聞き、絵の内容と合っているかどうか積極的に聞き取ろうとする。 ②相手の質問の内容を積極的に聞き取ろうとしている。 ③ How many ～? を用いて相手に尋ねる場面におけるロールプレイで、相手の発言の内容を積極的に聞き取ろうとする。	※「話すこと」「読むこと」「書くこと」で評価する。	① 部屋や町の様子の説明を聞き、どこに何があるのかを正しく聞き取ることができる。 ②相手の質問の内容を正しく聞き取ることができる。	① 〈発音〉 Mrs. [mɪsɪz] children [tʃɪldrən] Bye [bai] ② 〈音変化〉 Good evening Come on in. look at in it have enough	①ハロウィーンという行事を通して異文化について理解している。
話 す	① 部屋の中や家の近くにあるものについて、「～に…がある」という問答を積極的にしようとする。 ②物の数について積極的に問答しようとする。	① There is [are] で始まる文を用いて、あるものの存在と位置について適切に述べたり、尋ねたりできる。 ② How many ～? の文型を用いて適切に問答できる。	※「聞くこと」「読むこと」で評価する。	③ 〈イントネーション〉 Is there any candy, Mom? (↗) How many children are there? (↘)	
読 む	①拓哉・スーザン・ペーカー夫人の3人の話の内容を積極的に読みとろうとする。	①登場人物の立場に立って正しく音読することができる。	①3人の話の内容を正しく読みとることができる。	⑤ 〈連語、慣用表現〉 look at, you see, wait for, how many, here they are, of course, all right, let's	
書 く	①「～に…がある」という文を積極的に書こうとする。 ②Is [Are] there ～? の文を積極的に書こうとしている。 ③How many ～? を用いて積極的に文を書こうとしている。	①「～に…がある」という文を正しく書くことができる。 ②Is [Are] there ～? の文を正しく書くことができる。 ③How many ～? の文を正しく書くことができる。	※「聞くこと」「読むこと」で評価する。	⑥ 〈文法事項〉 ・名詞の複数形 ・some, any の用法 ・There is [are] ～. (平叙文) ・Is [Are] there ～? (疑問文と応答) ・How many + 複数名詞～? ・Let's + 動詞の原形～.	

5 本時の指導計画

(1) 本時の指導目標

- ①「～に…がありますか [いますか]。」と尋ねる表現と答え方が聞ける。
- ②「～に…がありますか [いますか]。」と尋ねる表現と答え方が正しく書ける。

(2) 本時の評価規準（B規準）

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
聞くことの評価規準	・相手の質問の内容を積極的に聞き取ろうとしている。	「話すこと」「読むこと」「書くこと」で評価する。	相手の質問の内容を正しく聞き取ることができる。	・ There + be 動詞 + ～. 疑問文と応答文は物や人の所在を尋ねる表現であることがわかる。

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
書くことの評価規準	・ワークシートの絵の中にある物について、 Is [Are] there ～ ? の文を積極的に書こうとしている。	・ There + be 動詞 + ～ の疑問文を適切に書くことができる。	※「聞くこと」「読むこと」で評価する。	・ There + be 動詞 + ～. の疑問文と応答文の運用についての基本的な知識を身につけている。

(3) 授業仮説

どの生徒にとっても取り組みやすい「書くこと」の教材（ワークシート）を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を行えば「～に…がありますか [いますか]。」と尋ねる表現と答える表現が聞けて、書くことができるであろう。

(4) 準備する物

ピクチャーカード、センテンスカード、ワークシート

(5) 本時の展開

段階	指導過程 【分】	学習活動及び言語活動		評価基準 との関連	評価方法	生徒への 支援
		教師の活動	生徒の活動			
導入 5分	①英語であいさつ（英語学習の雰囲気作り）【1】 ②QandA【4】	・英語であいさつをする。 ・日付、天気	・英語であいさつをする。 ・英語で質問に答える。 ・日付、天気を自主的に前に出て書かせる。			・激励する。

展 開	③前時の復習 【5】	・ Look at the picture. ・ 絵を見ながら教師の後について英文を言う。 ・ There is a ～. ・ There are ～. ・ 絵を見ながら英文を作らせる。 ・ 今日のねらいを提示する。	・ 黒板の絵に注目する。 ・ 教師の後について練習する。 ・ 絵を見て英文を作る。 ・ There is a ～. ・ There are ～.			・ 観察	・ 単語を提示する。 【個】
	④新教材の提示 【5】	今日のねらい:「～に…がありますか。」とたずねる言い方と答え方がわかる。 There is a book on the desk. Is there a book on the desk? 答え方 Yes, there is. No, there is not. 短縮すると isn't					
	⑤口頭練習 【8】	・ 平叙文と疑問文の違いに気づかせる。 ・ ワークシートを配布し、絵を描かせた後、ペアで口頭練習をさせる。	・ 教師の後について練習した後、ペアで練習する。	「書くこと」 のエ		・ 観察	・ 質問を変えて答えやすくする。 【個】
	⑥書く活動 【14】	・ 自分で作った英文をワークシートに書かせる。 ・ ワークシートの基礎基本をさせる。	・ ワークシートに描く。 ・ 正しく書く。 ・ 基礎基本の問題が終わった生徒は、応用問題へ進む。	「書くこと」 のアイ			・ 説明を加えたり、補足説明を加える。【個】
				「書くこと」 のエ			・ 机間指導 ・ 英語を書くことに抵抗のある生徒に配慮し、ワークシートは絵を描かせることから始める。【個】
13分 まとめ	⑦本時のまとめと自己評価 【13】	・ 今日学習したことをまとめる。 ・ 自己評価表を配布する。 ・ 次時の学習内容の予告と挨拶をする。	・ ノートに今日の大切な表現を書く。 ・ 自己評価する。 ・ 次時の予告を聞き挨拶をする。	「書くこと」 のエ	観察 ノート点検		・ 激励する。 ・ 補足説明をする。

6 授業仮説の検証

今回の検証授業終了後に行ったアンケートをもとに分析と考察を行った。

問1 「～に…がありますか」とたずねる文が聞けましたか。

ア	聞けた	0人
イ	だいたい聞けた	4人
ウ	やや聞けなかった	1人
エ	全く聞けなかった	1人

本時の目標文が聞けたかを問うものである。「聞けた」が0人、「だいたい聞けた」が4人と合計4人の生徒が聞けている。疑問文に入ってからまだ1時間目であったが、半分以上の生徒が目標文を聞くことができた。

問2 「～に…がありますか」と自分の思いを英語で書くことができましたか。

ア	書けた	0人
イ	だいたい書けた	3人
ウ	やや書けなかった	2人
エ	全く書けなかった	1人

本時の目標文をもとに自己表現の文が書けたかを問うものである。口頭練習の後には、必ず「書く」活動を行い、基本文の定着を図った。「書けた」が0人、「だいたい書けた」が3人と半分の生徒は目標文を書くことができた。

問3 今日のワークシートはどうでしたか。

ア	書けた	2人
イ	だいたい書けた	3人
ウ	やや書けなかった	0人
エ	全く書けなかった	1人

この問いは、個に応じたワークシートであったかどうかを問うものである。「書けた」2人、「だいたい書けた」3人で合計5人の生徒が書けたと答えているので、個に応じたワークシートの工夫ができたと判断することができる。

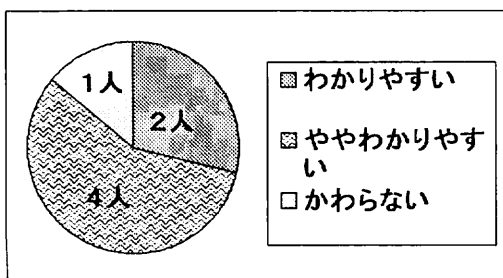
V 研究の考察

研究仮説の検証

学習指導において、どの生徒にとっても取り組みやすい「書くこと」の教材（ワークシート）を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を継続的に行うことによって、基礎的・基本的事項を定着させることができるであろう。

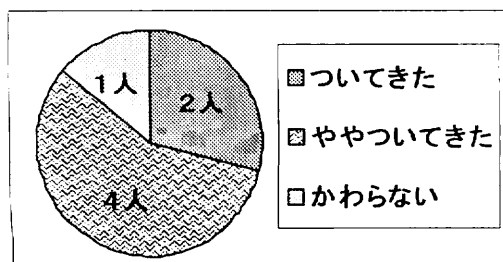
今回のワークシートを活用した検証終了後に行ったアンケートをもとに分析と考察を行った。

(1) 基本文の練習をするときに、ワークシートはあったほうがわかりやすいですか。



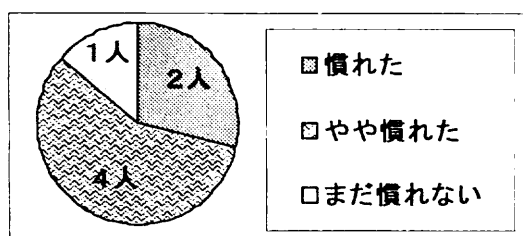
この質問は個に応じたワークシートの工夫ができたかを問うものである。「わかりやすい」が2人、「ややわかりやすい」が4人で、合計6人の生徒が「わかりやすい」と答えている。「かわらない」は1人であった。このことから、個に応じたワークシートの工夫ができたといえることができる。

(2) ワークシートを使うことによって書く力がついてきたと思いますか。



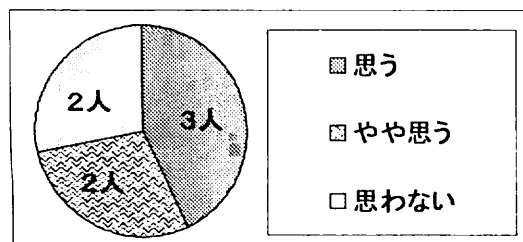
この質問は今回の検証の「書くこと」の活動の集大成として生徒が自己評価するものである。「ついてきた」が2人、「ややついてきた」が4人で、合計6人がついてきたと答えている。「かわらない」は1人であった。このことから、学習事項の理解を図ることができた。また、英語の学習に対する成就感が得られ、書く力が養われてきたといえることができる。

(3) 英語を書いて、練習することに慣れてきましたか。



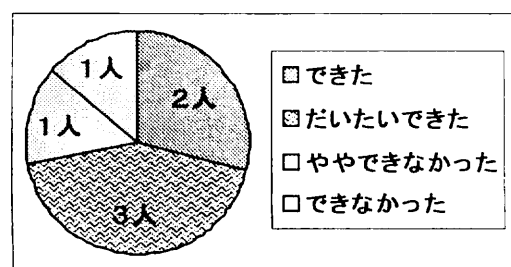
この質問は「書くこと」に対する苦手意識が軽減されてきたかを問うものである。「慣れた」が2人、「やや慣れた」が4人で、合計6人が慣れたと答えている。「まだ慣れない」は1人であった。検証前のアンケートでは、慣れたと答えたのは、5人であった。このことから、「書くこと」に対する苦手意識の軽減を図ることができたと考えることができる。

(4) ワークシートの中の問題の量をもう少し増やすともっと力がついてくると思いますか。



この質問は学習意欲の向上が図られたかを問うものである。「思う」が3人、「やや思う」が2人、合計5人の生徒がもう少し問題の量を増やしてもよいと答えている。「思わない」が2人である。このことから、学習意欲の向上が図られたと考える。

(5) Unit 7 終了後の単元テストはどうでしたか。



単元終了後に基礎的・基本的事項の定着を図るための単元テストを行った。「できた」が2人、「だいたいできた」が3人で、5人ができたと答えている。「ややできなかった」1人、「できなかった」が1人で、できなかったは、2人である。このことからほぼ学習事項が定着できたと捉えることができる。これは、ワークシートを活用し個に応じた指導を継続して行ったことが要因と考える。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) ワークシートを工夫し、個に応じた指導を行うことによって一人ひとりの基礎的・基本的事項の定着を図ることができた。
- (2) 「書く」活動を系統的・計画的に指導していくことにより、「書くこと」の抵抗感が軽減されてきた。
- (3) 自作のワークシートを活用し、個に応じた指導を行うことによって、成就感が得られ、学習意欲が向上した。
- (4) 授業実践を通し、「書くこと」の活動における個に応じた指導の工夫・改善を行うことができた。

2 今後の課題

- (1) 「書くこと」が実践的コミュニケーション能力の育成につながっていくように、生徒の個に応じた、なお一層の指導の工夫・改善を考えていく。
- (2) 家庭学習において、個人差に配慮した家庭学習の与え方を工夫する。

〈主な参考文献〉

文部省	『中学校学習指導要領 解説—外国語編—』	東京書籍	1999年
沖縄県教育委員会	『基礎的・基本的事項事例集 [平成14年度改訂版]』		2002年
教育開発研究所	『教職研修増刊・新教育課程実践6』		2003年